

2013年3月期
第2四半期 決算説明会

2012年11月20日

株式会社ジェイテクト

—— **Value & Technology**

技に夢を求めて 価値ある技術をあなたのもとへ

I. 第2四半期決算の概要

1. 2012年度 第2四半期業績

2. 2012年度 業績予想

1-1) 決算サマリー

2012年度第2四半期実績

()は前年同期増減率

売上高	5,262億円 (+13.7%)
営業利益	153億円 (△1.8%)
経常利益	122億円 (△20.5%)
四半期純利益	48億円 (△42.2%)

○前年同期と比べ、増収・減益

○事業別セグメント

・機械器具部品

自動車販売増加によるステアリングの売上高増加などにより増収も、
為替差・売価水準低下・先行投資費用などにより減益

・工作機械

日本・北米で需要が好調だったことなどにより、増収・増益

2012年度配当金

中間配当 7円、年間 14円(予定)・・・前年度に比べ、2円減配の予定

1-2) 財務データ

(億円)

()は、売上高利益率

	2011年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	増 減	対前年同期 増 減 率
売 上 高	4,627	5,262	+634	+13.7%
営 業 利 益	(3.4%) 156	(2.9%) 153	△2	△1.8%
経 常 利 益	(3.3%) 153	(2.3%) 122	△31	△20.5%
四半期純利益	(1.8%) 84	(0.9%) 48	△35	△42.2%
為 替 レ ー ト (4 ~ 9 月)	79円/USD 112円/EUR	78円/USD 99円/EUR	1円 円高 13円 円高	

1-2) 財務データ②

有利子負債：短期借入金返済により減少

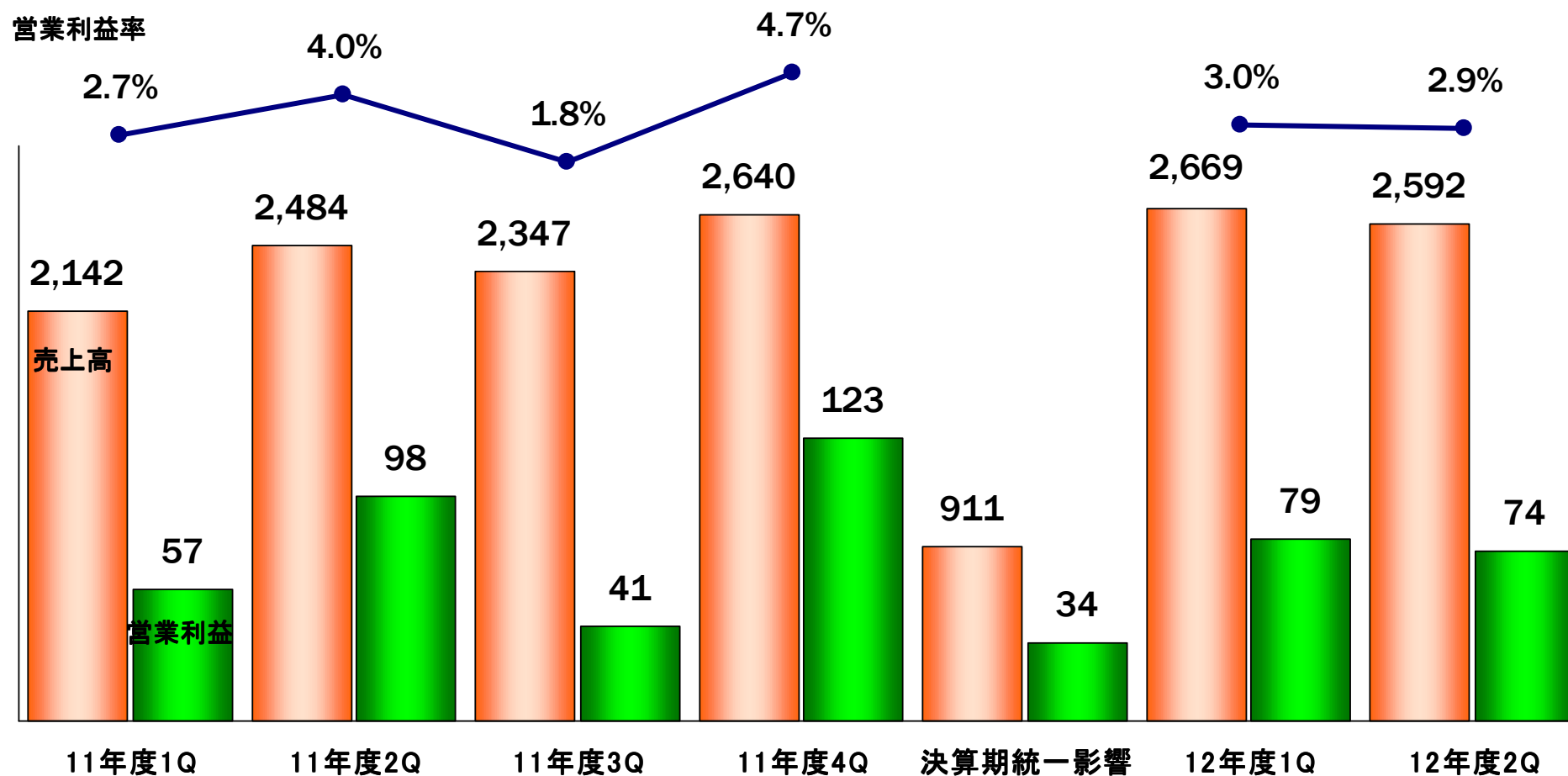
設備投資：商品力強化の開発投資、付加価値を高める内製化投資、新興国での能力増強投資を実施

(億円)

	2011年度	2012年度 第2四半期	増 減	対 前 期 増 減 率
棚 卸 資 産	1,545	1,501	△44	△2.9%
有 利 子 負 債	2,551	2,278	△272	△10.7%
	2011年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	増 減	対前年同期 増 減 率
設 備 投 資 額	225	399	+174	+77.3%
減 価 償 却 費	214	206	△8	△3.8%

1-3) 四半期業績推移

(億円)



1-4) 事業別業績

◇機械器具部品

- ・ステアリング・駆動・・・日本・北米・アジアで増収、欧州は減収
- ・ベアリング・・・自動車向け：日本・北米・アジアで増収、欧州は減収
市販向け：ほぼ全地域で減収

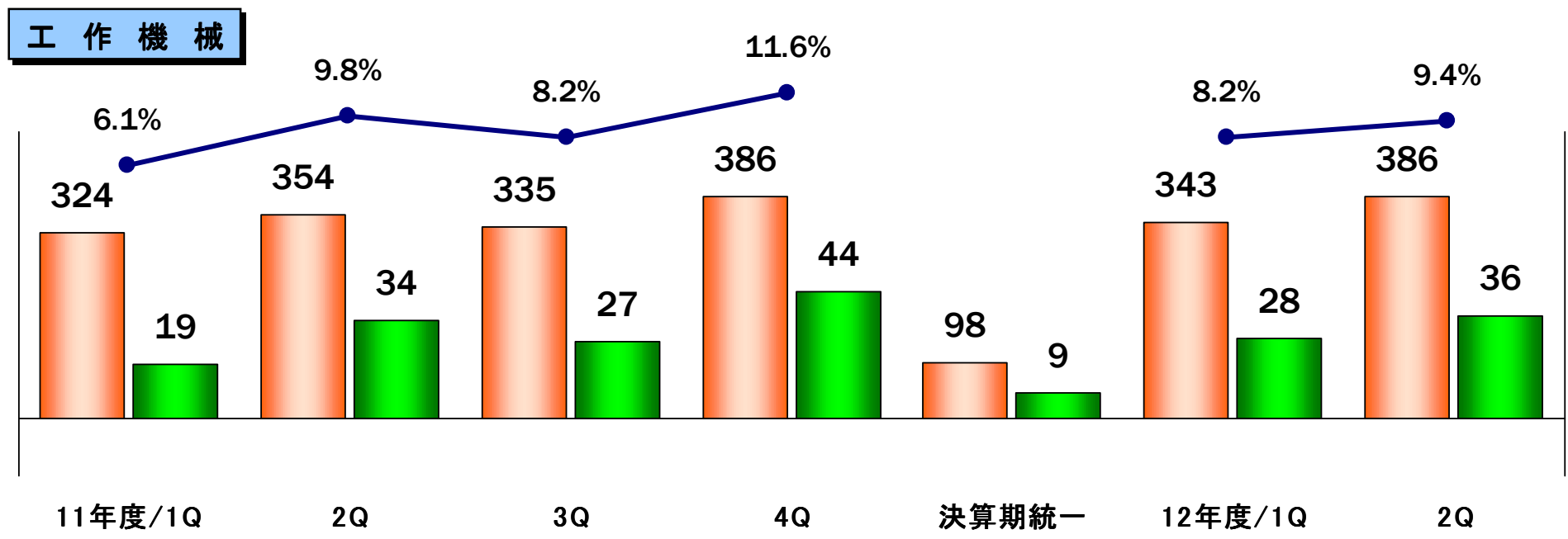
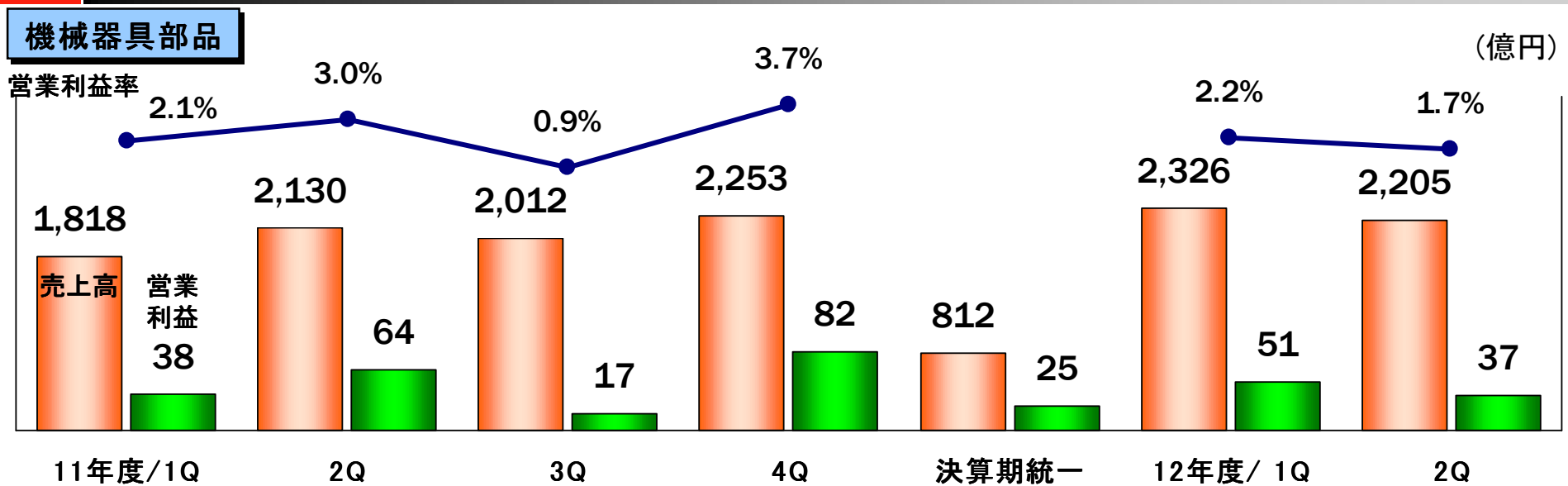
◇工作機械・・・日本・北米の需要が好調で増収

(億円)

※「消去」は省略しております。

		2011年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	増減額	増減率	
機械器具部品	ステアリング	売上高	1,841	2,350	+508	+27.6%
	ベアリング	売上高	1,566	1,589	+22	+1.5%
	駆動	売上高	540	592	+51	+9.6%
	【合計】	売上高	3,948	4,531	+583	+14.8%
		営業利益	103	88	△14	△14.1%
工作機械		売上高	679	730	+51	+7.5%
		営業利益	54	64	+10	+18.7%

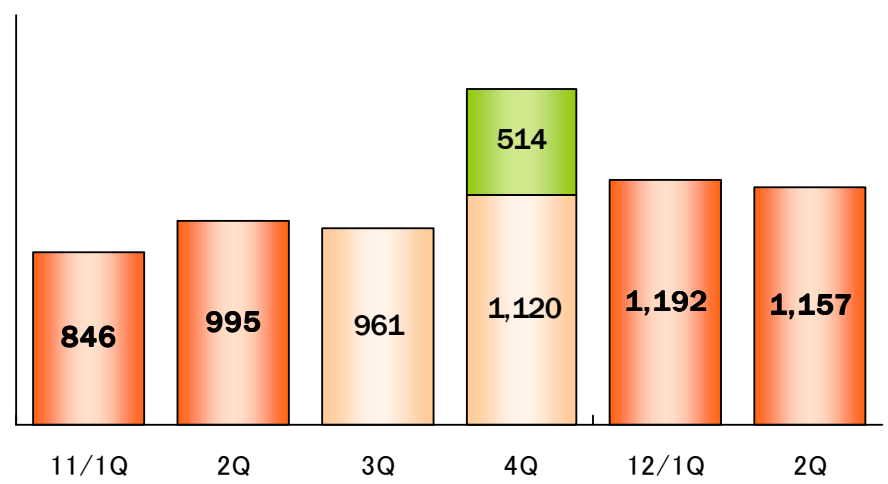
1-5) 事業別業績－四半期推移



1-6) 製品別売上高一四半期推移

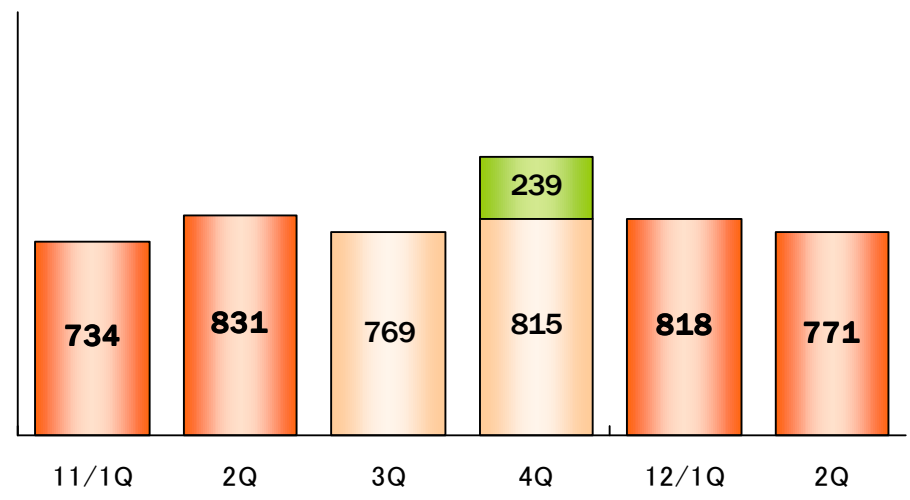
ステアリング

決算期統一の影響額

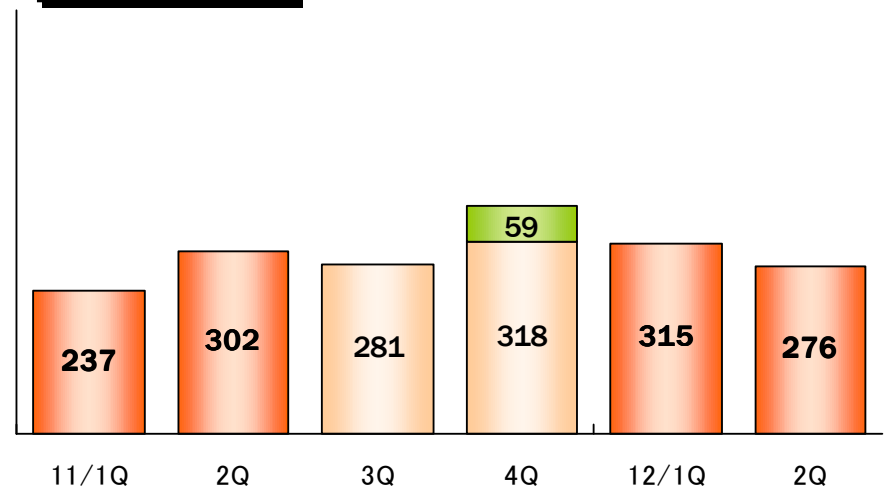


ベアリング

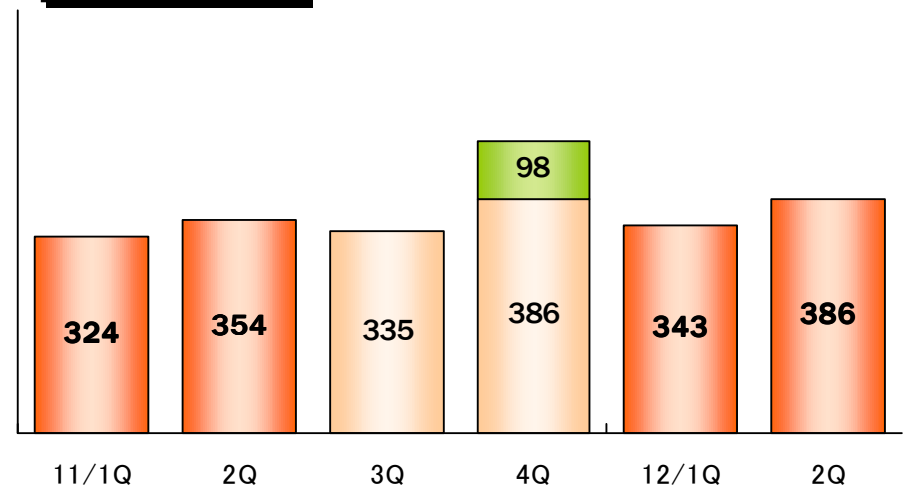
(億円)



駆動



工作機械



1-7) 法人所在地別業績①

(億円)

※「消去」は省略しております。

		2011年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	増減額	増減率
日 本	売上高	2,362	2,764	+402	+17.0%
	営業利益	63	86	+23	+36.8%
欧 州	売上高	760	624	△135	△17.8%
	営業利益	△16	△30	△13	—
北 米	売上高	696	861	+164	+23.7%
	営業利益	3	1	△2	△73.1%

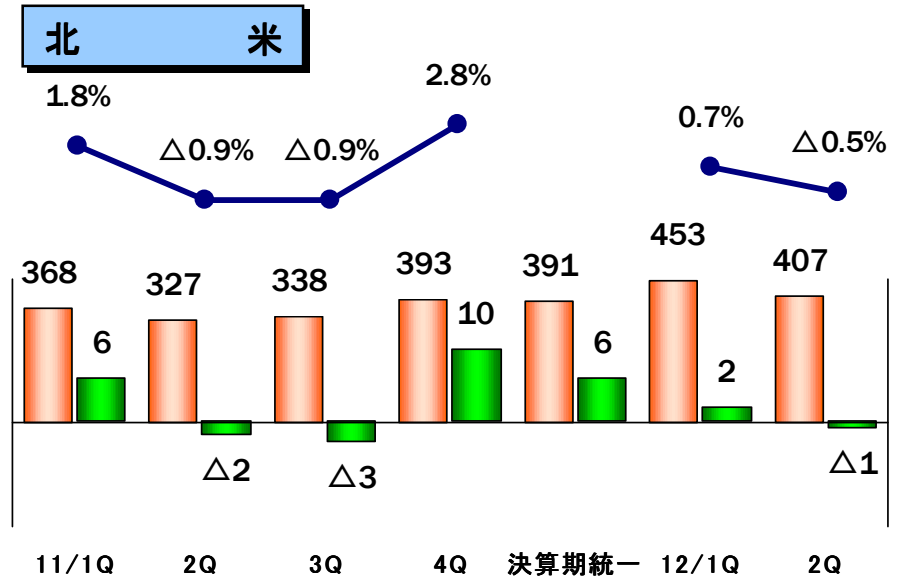
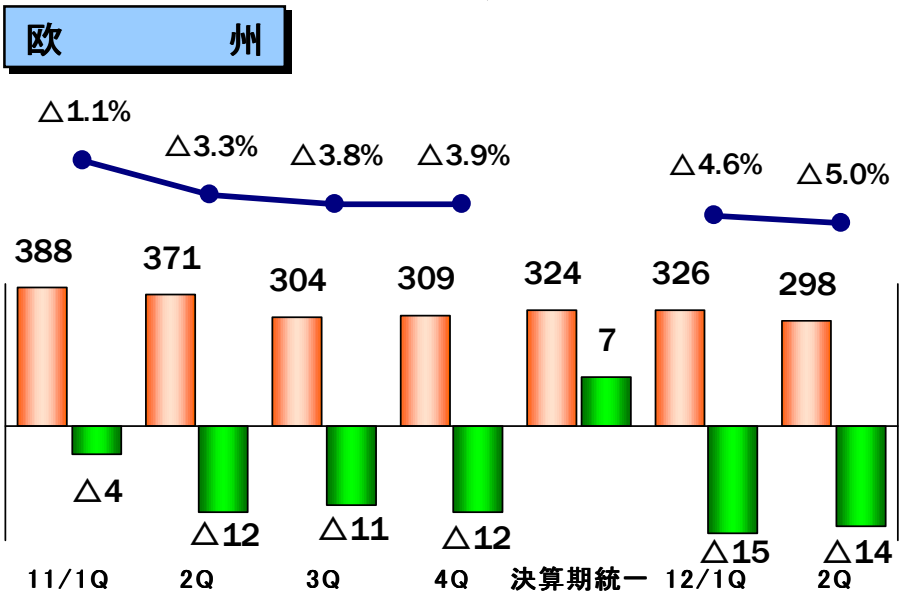
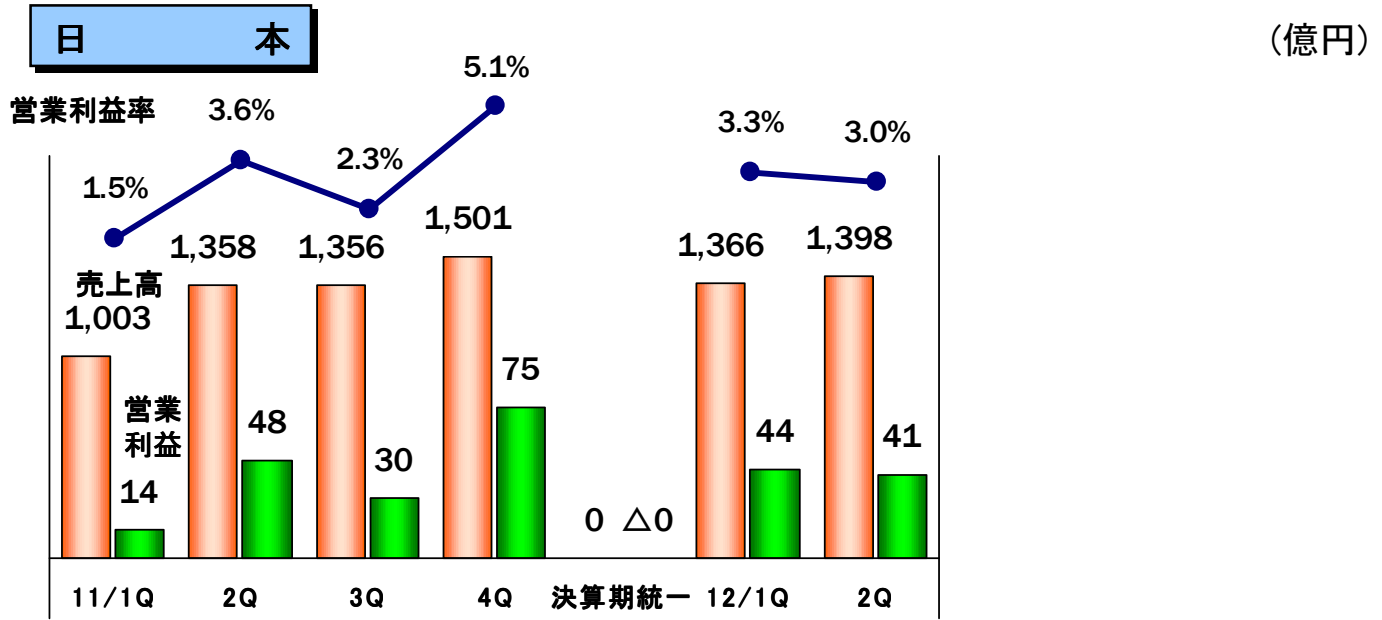
1-7) 法人所在地別業績②

(億円)

※「消去」は省略しております。

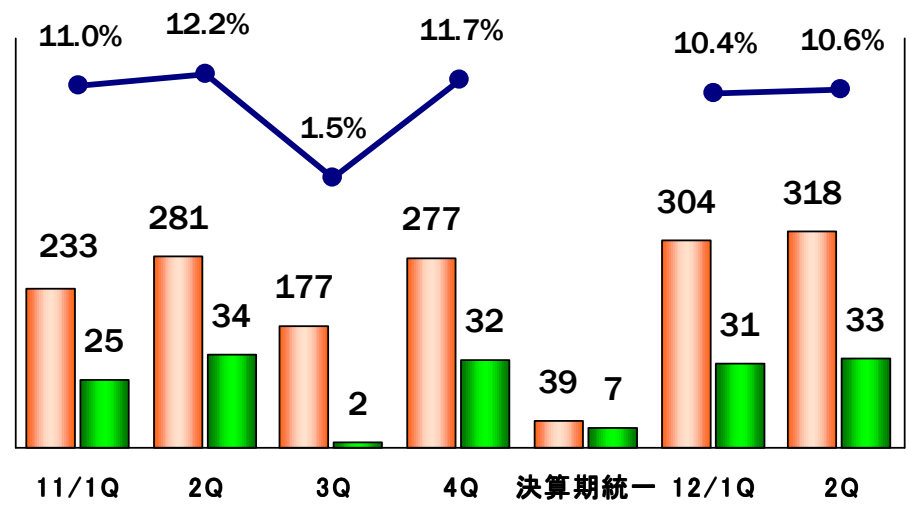
		2011年度 第2四半期	2012年度 第2四半期	増減額	増減率
アジア・ オセアニア	売上高	515	622	+107	+20.8%
	営業利益	60	65	+4	+8.2%
中国	売上高	207	301	+94	+45.3%
	営業利益	32	34	+1	+3.9%
その他の地域	売上高	85	86	+1	+1.5%
	営業利益	7	2	△4	△63.8%

1-8) 法人所在地別業績－四半期推移①

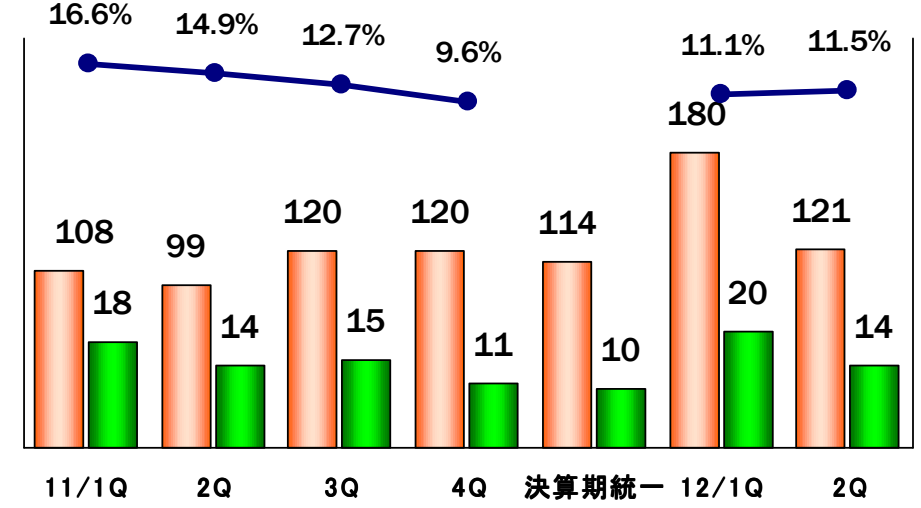


1-8) 法人所在地別業績－四半期推移②

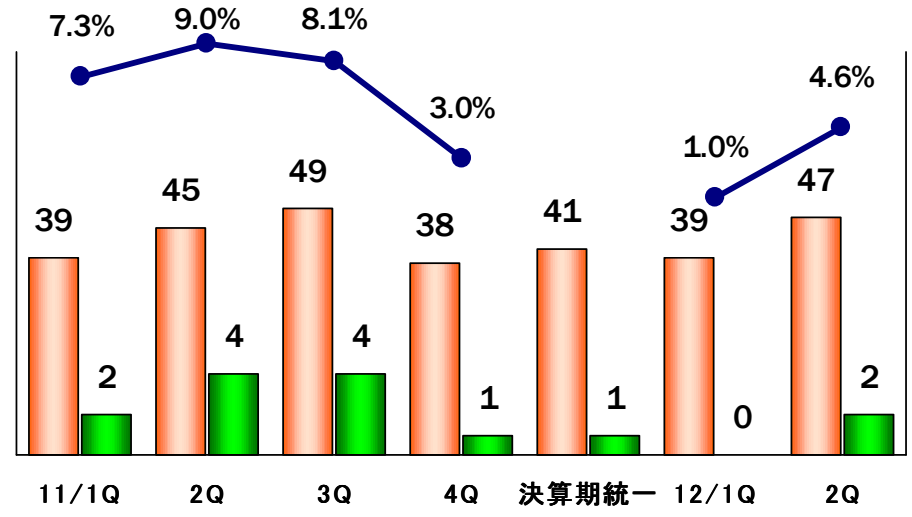
アジア・オセアニア



中国



その他の地域(中南米)



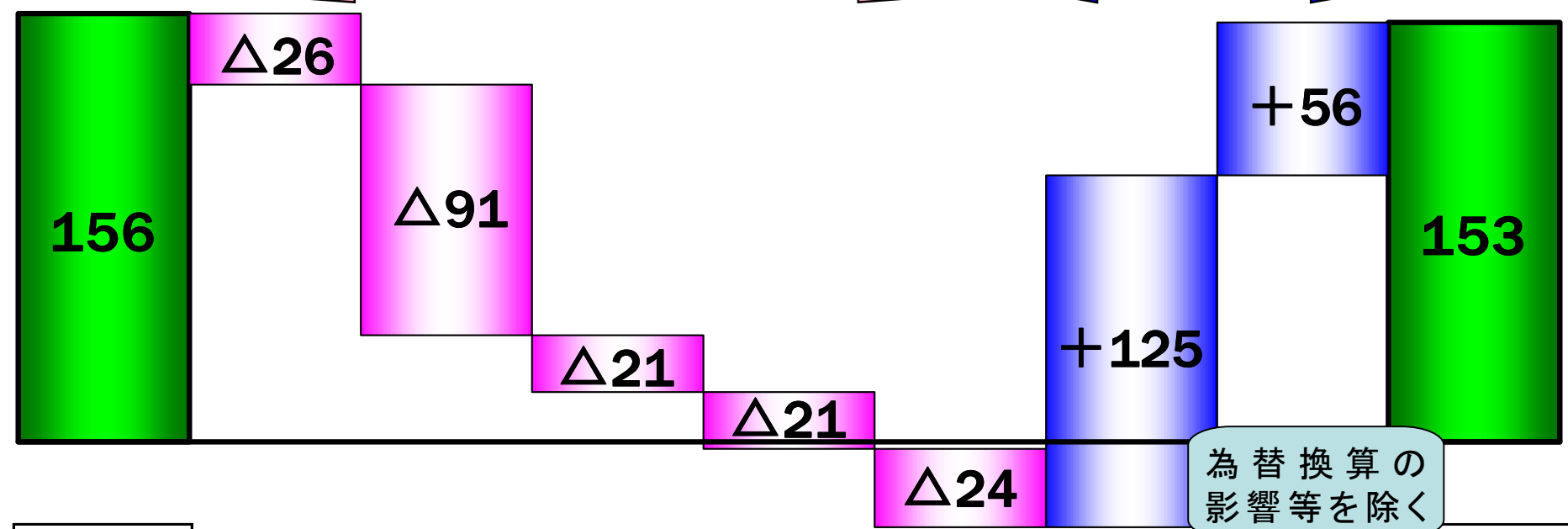
1-9) 営業利益増減分析

営業利益 2億円の減少

(億円)

減益要因 $\Delta 183$ 億円

増益要因 $+181$ 億円



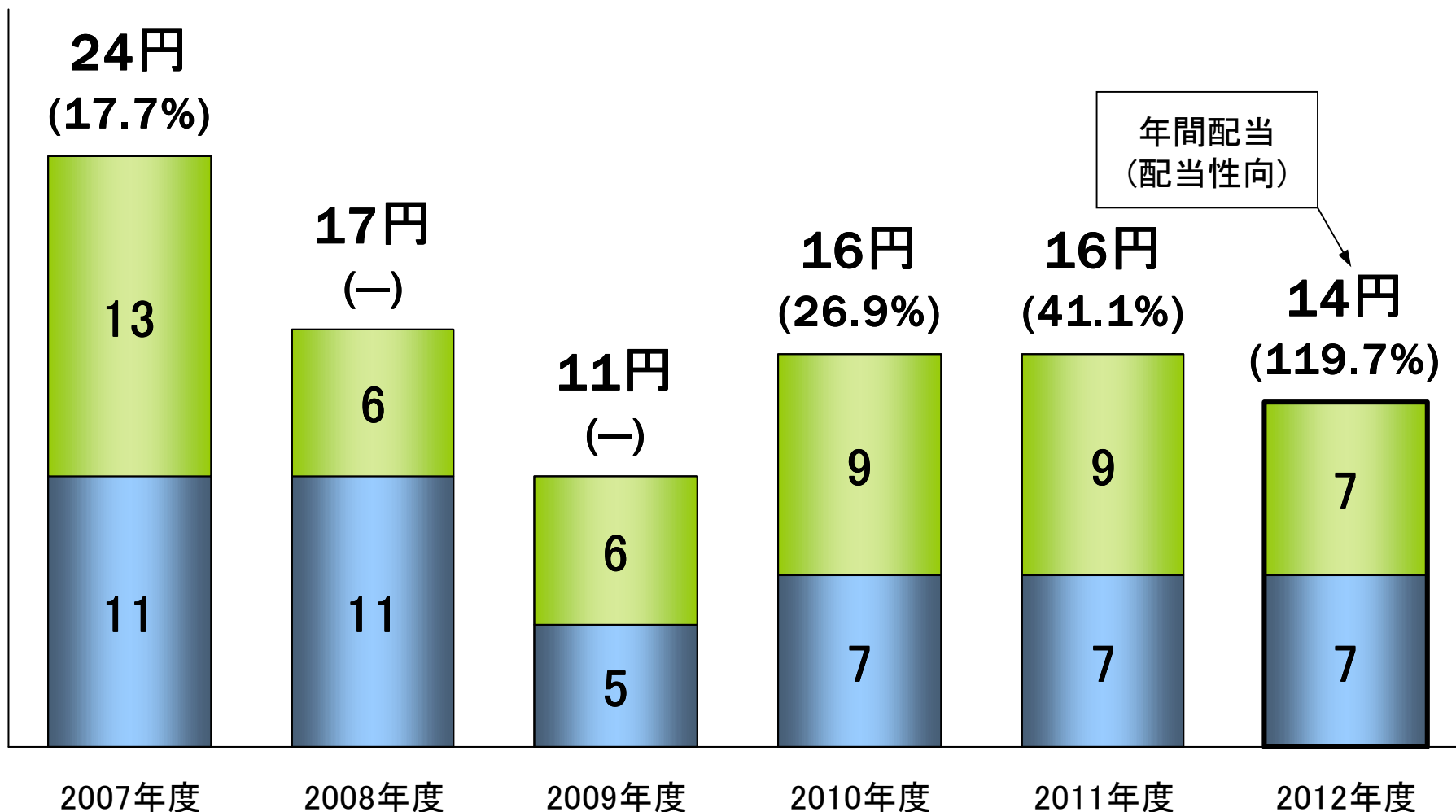
為替換算の影響等を除く

11年度 第2四半期	為替	売上価	原価	先行投資費用	その他	実質売上利益増加	原価改善	12年度 第2四半期
		ウ	格					
	替	ン	材					
		準	変					
			動					
			料					

1-10) 配当の推移

中間配当: 7円 年間配当(予定): 14円

(円/株)



1. 2012年度 第2四半期業績

2. 2012年度 業績予想

2-1) 当社を取り巻く環境の変化

- 欧州債務問題の長期化
- 中国での景気減速および日系の自動車販売の減少
- 円高の継続

2-2) 通期業績予想修正

- ・欧州での需要低迷の長期化、
中国での景気減速及び日系の自動車販売減少などにより、
売上高を下方修正
- ・売上高減少による影響の他、戦略的な先行投資の推進、
円高の継続などにより、利益を下方修正

(億円)
 ()は、売上高利益率

	1Q決算発表時予想 (7月)	2Q決算発表時予想 (10月)	増 減
売上高	11,000	10,500	△500
営業利益	(4.1%) 450	(2.6%) 270	△180
経常利益	(3.9%) 430	(2.0%) 210	△220
当期純利益	(2.3%) 250	(0.4%) 40	△210

2-3) 通期業績予想

売上高…前年度の決算期統一影響を除いた実質ベース比で増収計画
 利益…為替差・売価水準低下・先行投資などにより、実質ベース比でも減益計画

(億円)	2011年度	2012年度 (予想)	増 減	決 算 期 統 一 影 響	実 質 増 減
()は、売上高利益率					
売 上 高	10,526	10,500	△26	△911	+884
営 業 利 益	(3.4%) 356	(2.6%) 270	△86	△34	△51
経 常 利 益	(3.7%) 386	(2.0%) 210	△176	△36	△140
当 期 純 利 益	(1.3%) 133	(0.4%) 40	△93	△30	△62
為 替 レ ー ト (4 ~ 3 月)	78円/USD 107円/EUR	78円/USD 100円/EUR	変わらず 7円 円高		
設 備 投 資 額	658	850	+191		
減 価 償 却 費	467	450	△17		

2-4) 事業別売上高

(億円)

		2011年度	2012年度 (予想)	増減額	決算期 — 影響	実質増減
機械器具部品	ステアリング	4,437	4,680	+242	△514	+756
	ベアリング	3,391	3,180	△211	△239	+27
	駆 動	1,199	1,180	△19	△59	+40
	【 合 計 】	9,027	9,040	+12	△812	+824
工 作 機 械		1,498	1,460	△38	△98	+59
【 売上高合計 】		10,526	10,500	△26	△911	+884

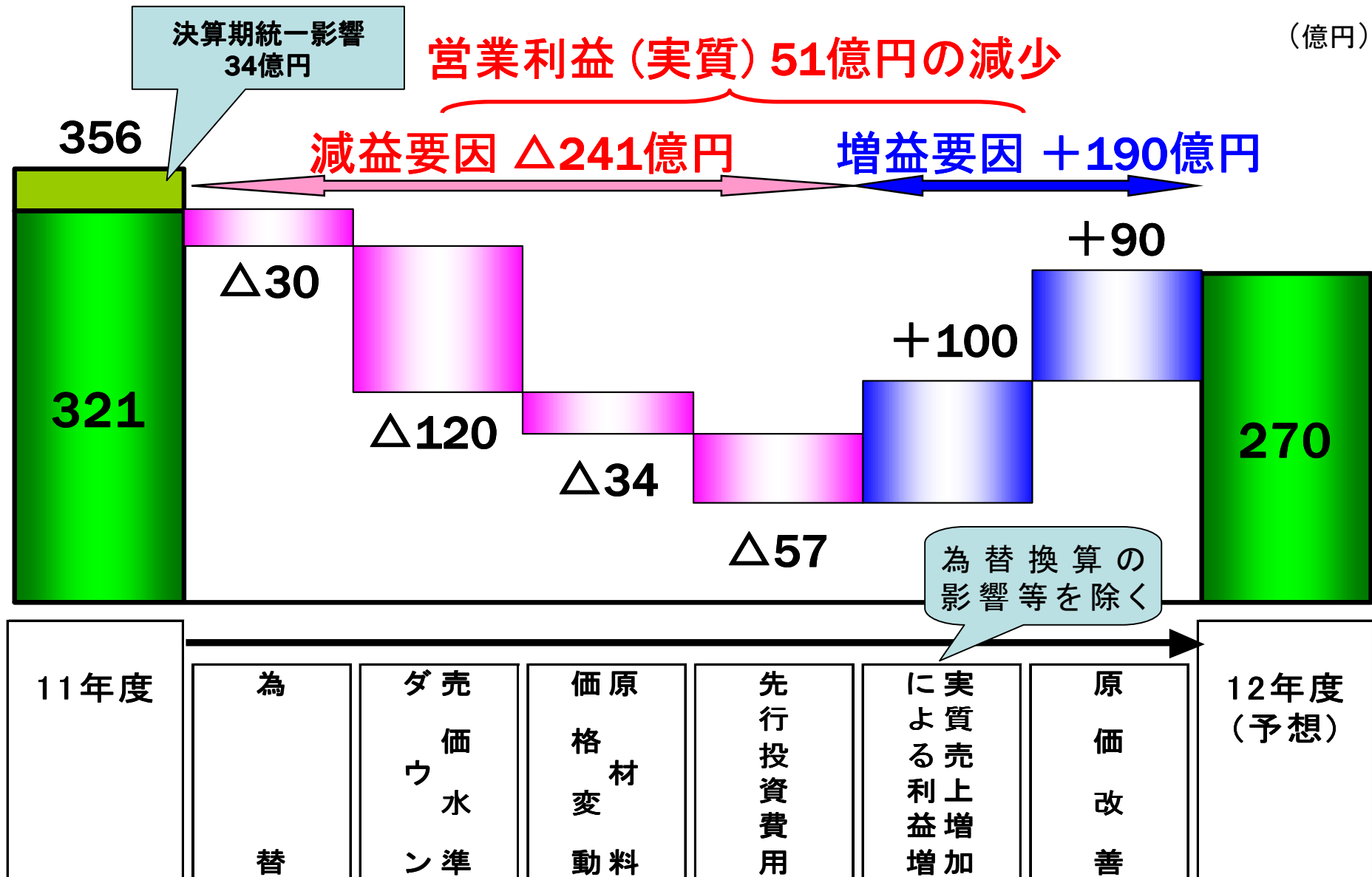
2-5) 法人所在地別売上高

(億円)

	2011年度	2012年度 (予想)	増減額	決算期 統一影響	実質増減
日本	5,220	5,525	+304	—	+304
欧州	1,698	1,230	△468	△324	△144
北米	1,820	1,760	△60	△391	+331
アジア・オセアニア	1,009	1,325	+315	△39	+354
中国	562	485	△77	△114	+36
その他の地域	214	175	△39	△41	+2
【売上高合計】	10,526	10,500	△26	△911	+884

2-6) 営業利益増減分析

(億円)



Ⅱ. 経営戦略

市場の変化をビジネスのチャンスとらえ成長し続ける企業へ

JTEKT VISION 2015の重点実施事項

商品トレンドの変化

◆商品力の強化

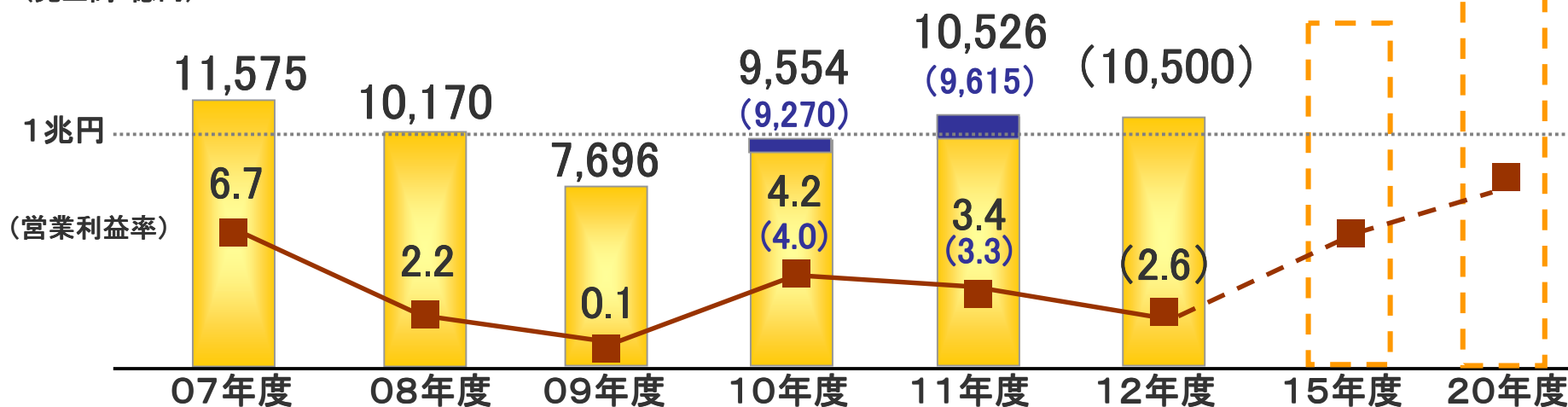
需要地域の変化

◆新興国市場の取り組み強化

産業構造の変化

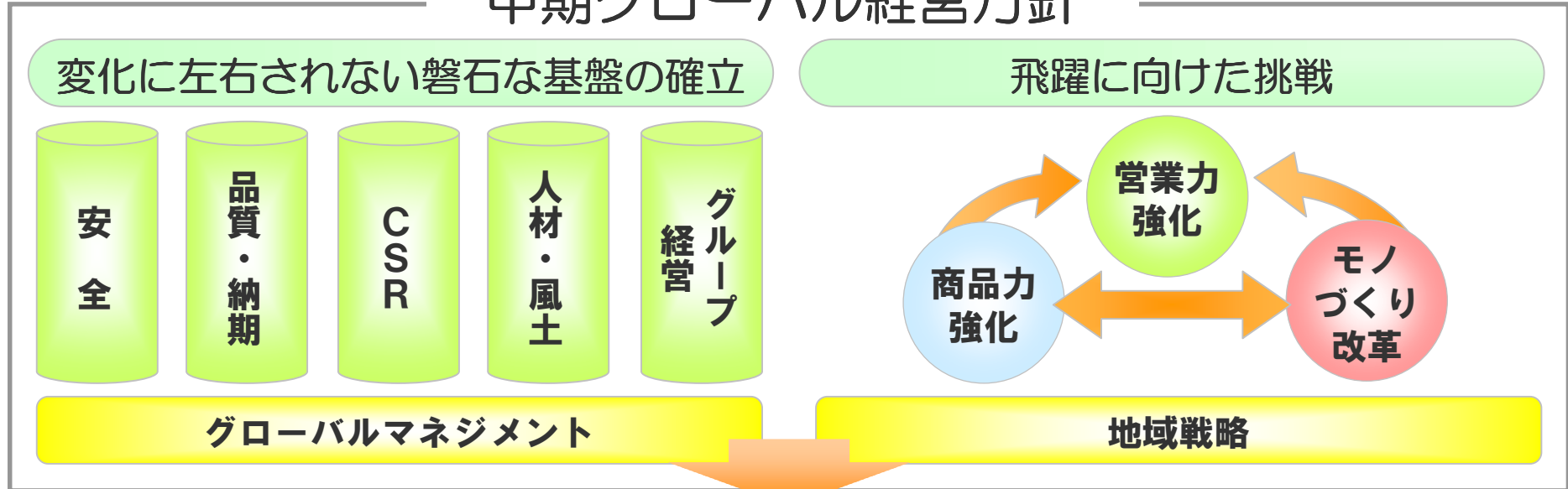
◆強化事業領域の拡大（産業機械）

(売上高:億円)

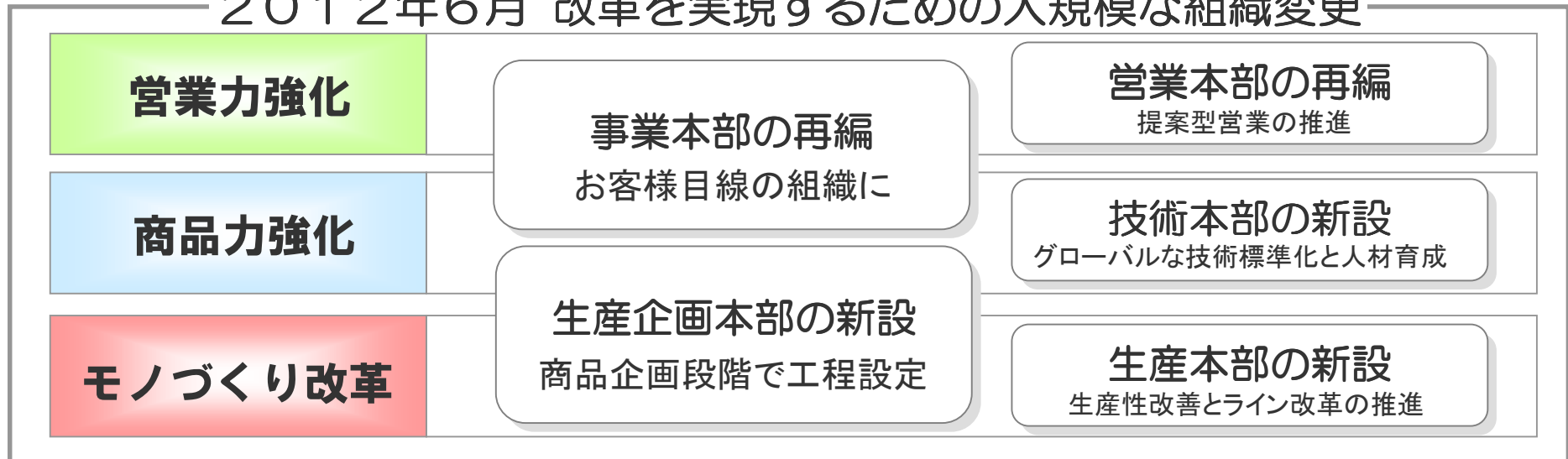


※2010年度、2011年度は子会社の決算期変更のため15ヶ月の数値となっております。カッコ内は12ヶ月ベースの数値です。

中期グローバル経営方針



2012年6月 改革を実現するための大規模な組織変更



営業・商品・モノづくりの三位一体改革の推進

営業力強化

市場トレンドを感知し、
システムサプライヤーとしての提案へ

- 自社評価・解析に基づいた商品価値、標準商品、ソリューションの提案

→ 営業本部・事業本部

商品力強化

市場から見て価値のある商品を
タイムリーにご提供

- 標準化・シリーズ化・モジュール化の推進
個別設計から共通設計(イージーオーダー)

→ 研究・技術・事業・生産企画本部

モノづくり改革

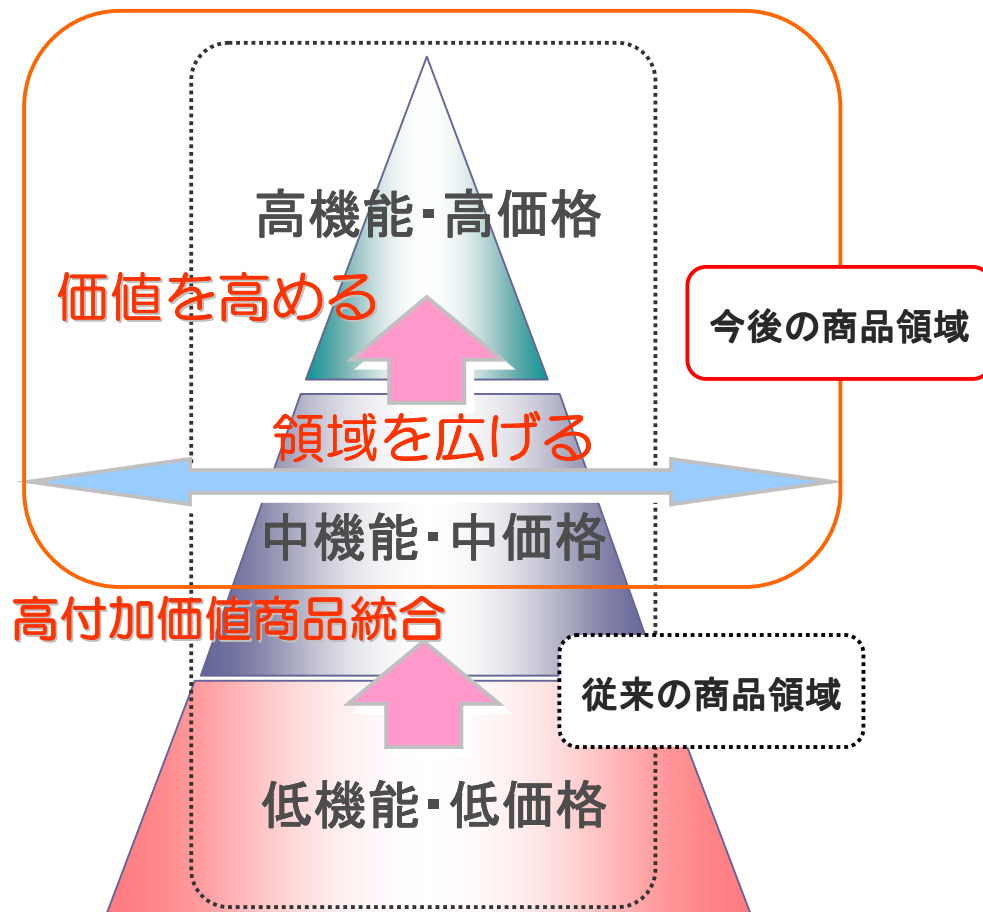
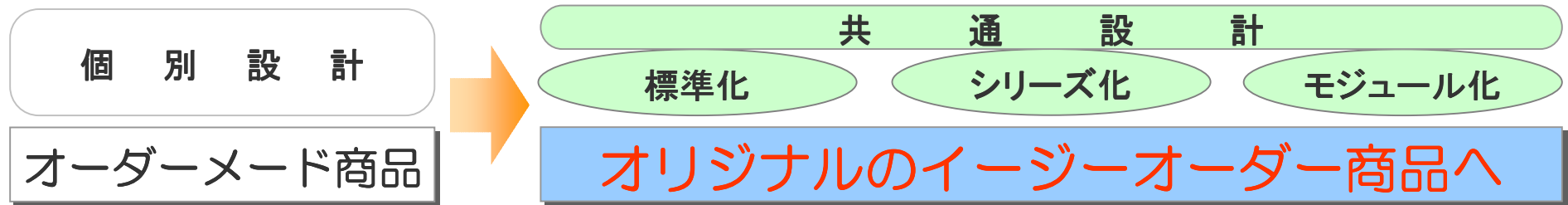
良い商品を少量でも安くつくる
グローバル標準ラインを構築・展開

- 商品企画・開発段階から工程・内外製設定
- 生産技術の手の内化、レシピ化

→ 生産企画・生産技術・調達・生産本部

ライン汎用化・成長分野への重点投資

商品力の強化-コンセプト



◆ 高付加価値商品へのシフトを進め
ボリュームゾーンを商品統合

-種類削減目標(事例)-

- ・玉軸受 72,000 → 5,400種類
- ・ハブユニット 33 → 14種類
- ・工作機械用主軸軸受
324 → 56種類

- 生産効率の向上
ライン汎用化による収益力向上
- サプライチェーンのシンプル化
による効率化

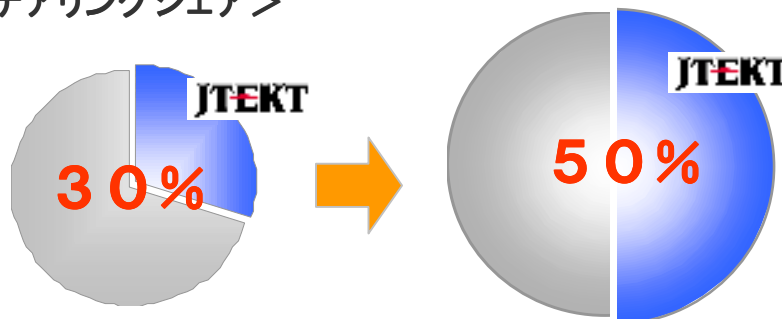
フルラインナップの強みを生かした商品戦略

<商品ラインナップ比較>

	JTEKT	A社	B社	C社	D社	E社
C-EPS (コラム式)	○	○	○	○	○	×
H-EPS (電動ポンプ式)	○	×	○	×	×	×
油圧	○	×	○	○	○	○
P-EPS (ピニオン式)	○	×	×	×	○	×
R-EPS (ラック式)	○	×	○	○	○	○

市場	方向性
小型車・大型車 + 新興国 ブラジル・中国 インド・インドネシア	標準シリーズ化 付加価値の向上 →モータ・ECU・減速機の一体化 油圧からの切替えに対応した 供給能力の拡大
大型車・高級車 + 欧州・米国	付加価値の向上 →機能安全対応 →小型軽量・高フィーリング 高出力EPSの開発による 大型車市場へEPS拡販

<目指す 電動パワーステアリングシェア>



電動パワーステアリングの今後の開発事例

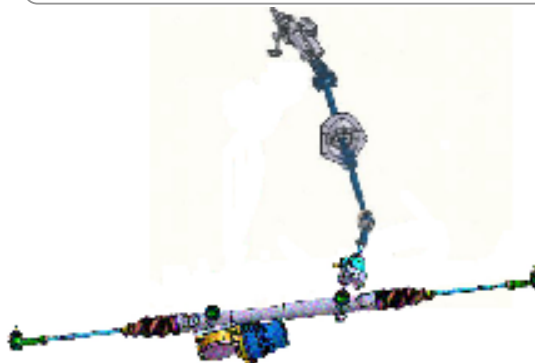
C-EPS



A・B・Cセグメント車
(軸力9 kN以下)

内製化・標準化
によるコスト低減

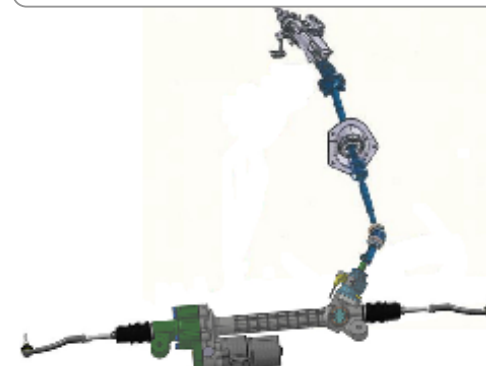
DP-EPS



C・Dセグメント車
(軸力9 kN~12 kN)

小型軽量化の推進と
機能安全対応による
市場競争力確保

RP-EPS



E・Fセグメント車
(軸力12 kN以上)

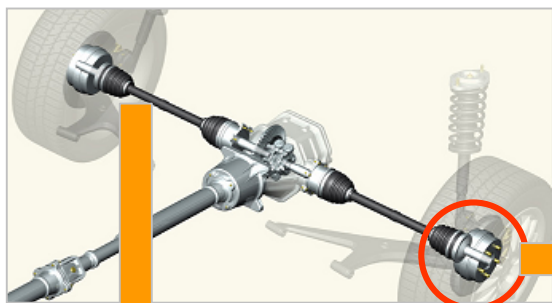
高出力に対応できる
ダントツの操舵感を
実現

機能安全対応 : 2系統駆動モータなど

標準シリーズ化・共通化

標準化・シリーズ化・モジュール化商品の提案事例

ドライブシャフトモジュール

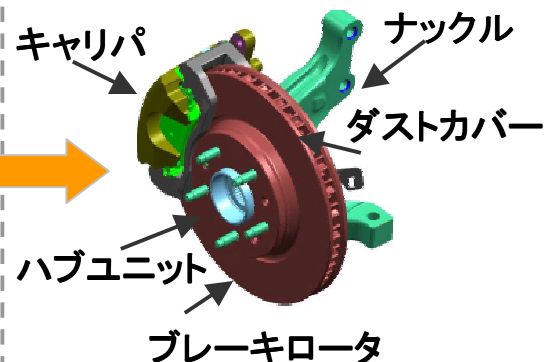


小型軽量化CVJシリーズ

共通設計の標準仕様

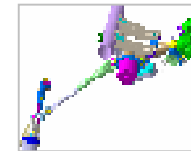
剛性と小型化・軽量化の両立

ハブユニットモジュール



周辺部品を含めたCAE解析
による軽量化・モジュール化

軽自動車パッケージ



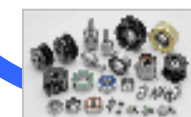
小型軽量コラム
電動パワーステアリング



超低トルクTRB
ピニオン用(LFT-Ⅲ)



小型軽量CVJ



各種低トルクベアリング
(エンジン・ミッション・デフ等)



低トルク・
軽量ハブユニット

車種・メーカーを超えたシリーズ・モジュール商品の提案

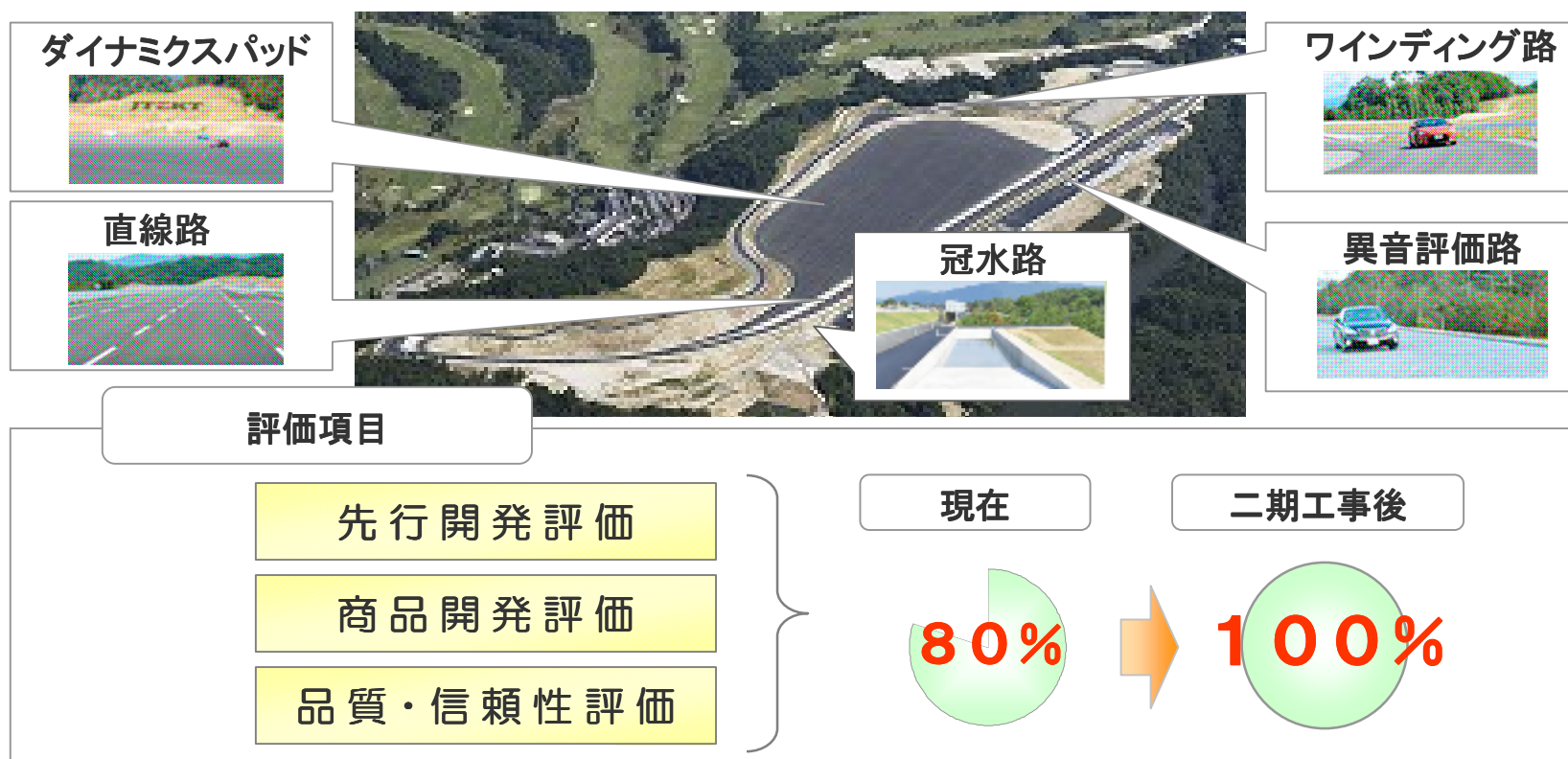
伊賀試験場（テストコース）開設のねらい

専門メーカーとして
蓄積した評価・解析力で
標準商品をご提案



お客様の商品開発に貢献

- 開発期間の短縮
- 開発費用の削減



工作機械システム化の提案事例

クランクシャフト研削フレキシブルセル

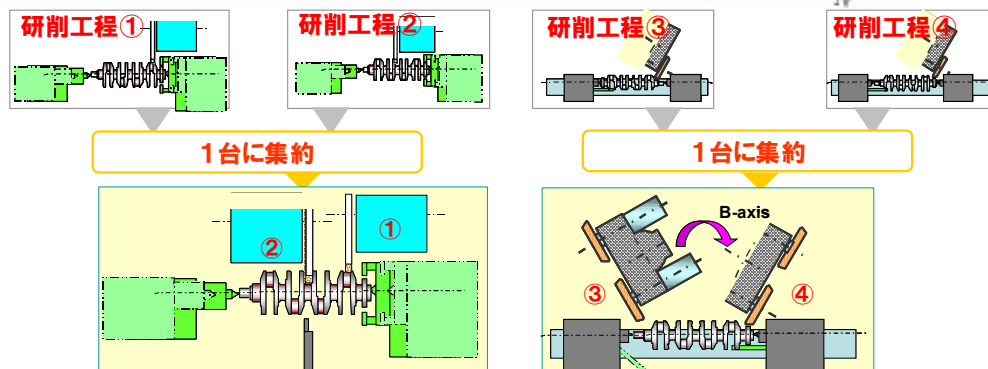


GF50M-70-T

TG4

工程集約で工作機械を
4台から2台に

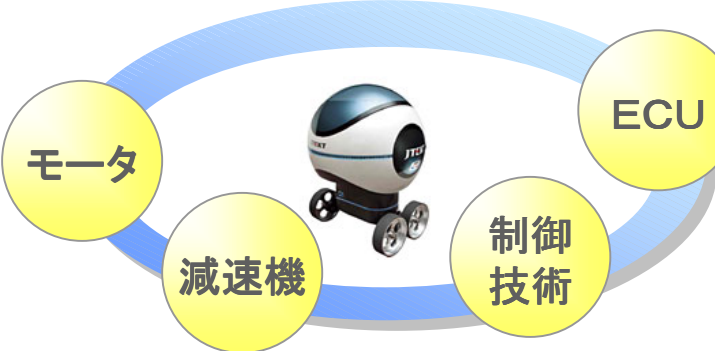
段取り替え時間ゼロ



正味率向上で生産効率に貢献

※正味率=加工時間/総サイクルタイム

技術革新による商品力の強化

技術革新により生み出した新技術の例	新技術採用事例：階段昇降ロボット
<p>➤ モータ、ECU、減速機を一体化 小型・高剛性・高トルクアクチュエータ</p>	 <p>The diagram shows a small white and blue robot on four wheels. It is surrounded by four yellow circles connected by a blue oval line. The circles are labeled: 'モータ' (Motor) on the left, '減速機' (Reduction gear) at the bottom, '制御技術' (Control technology) on the right, and 'ECU' at the top.</p>
<p>➤ 独自の制御技術 (重心移動、倒立、水平姿勢維持)</p>	

技術力の革新により強化事業領域の拡大

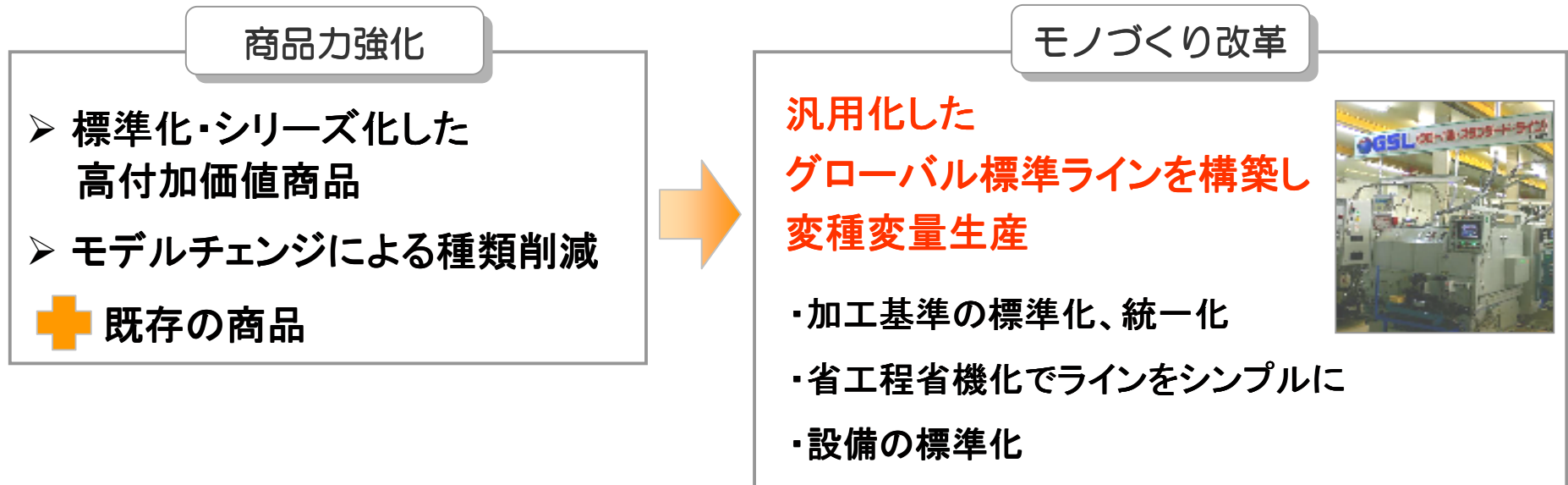
グループの
コア技術を総動員



固有技術と
新たな技術の融合



既存事業の強化
新事業領域へ拡大



商品企画段階から
手の内化技術、内外製を設定

試作段階で工程設定し
日本でGSLを構築

レシピ化→グローバル展開
(レシピ化:設備・レイアウト・
教育訓練・保全...)

どこでも、誰でも、少量でも、安く高品質な商品をつくるラインへ

加工組立ラインのリードタイム短縮

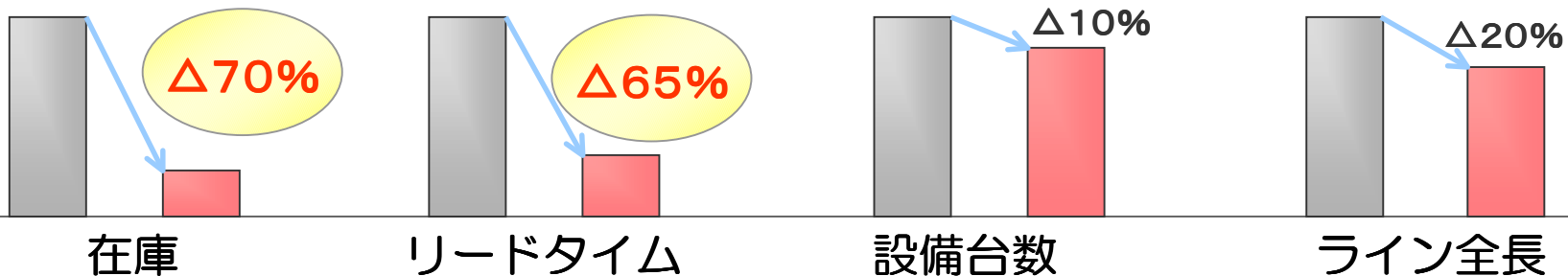
従来ライン

GSL (グローバル標準ライン)

CVJ

工程集約
設備削減

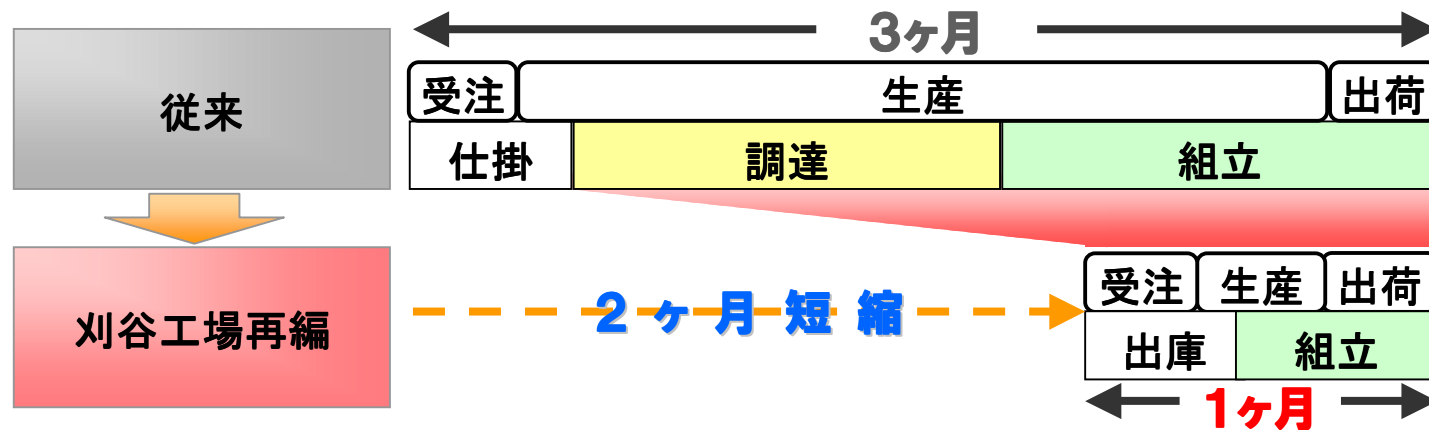
グローバル標準ラインにより在庫圧縮・リードタイム短縮



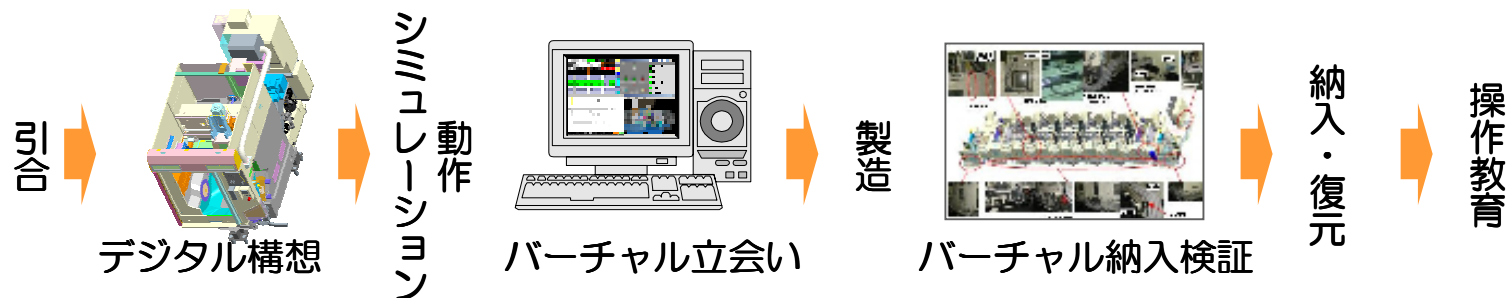
工作機械のリードタイム短縮

標準機生産ライン構築

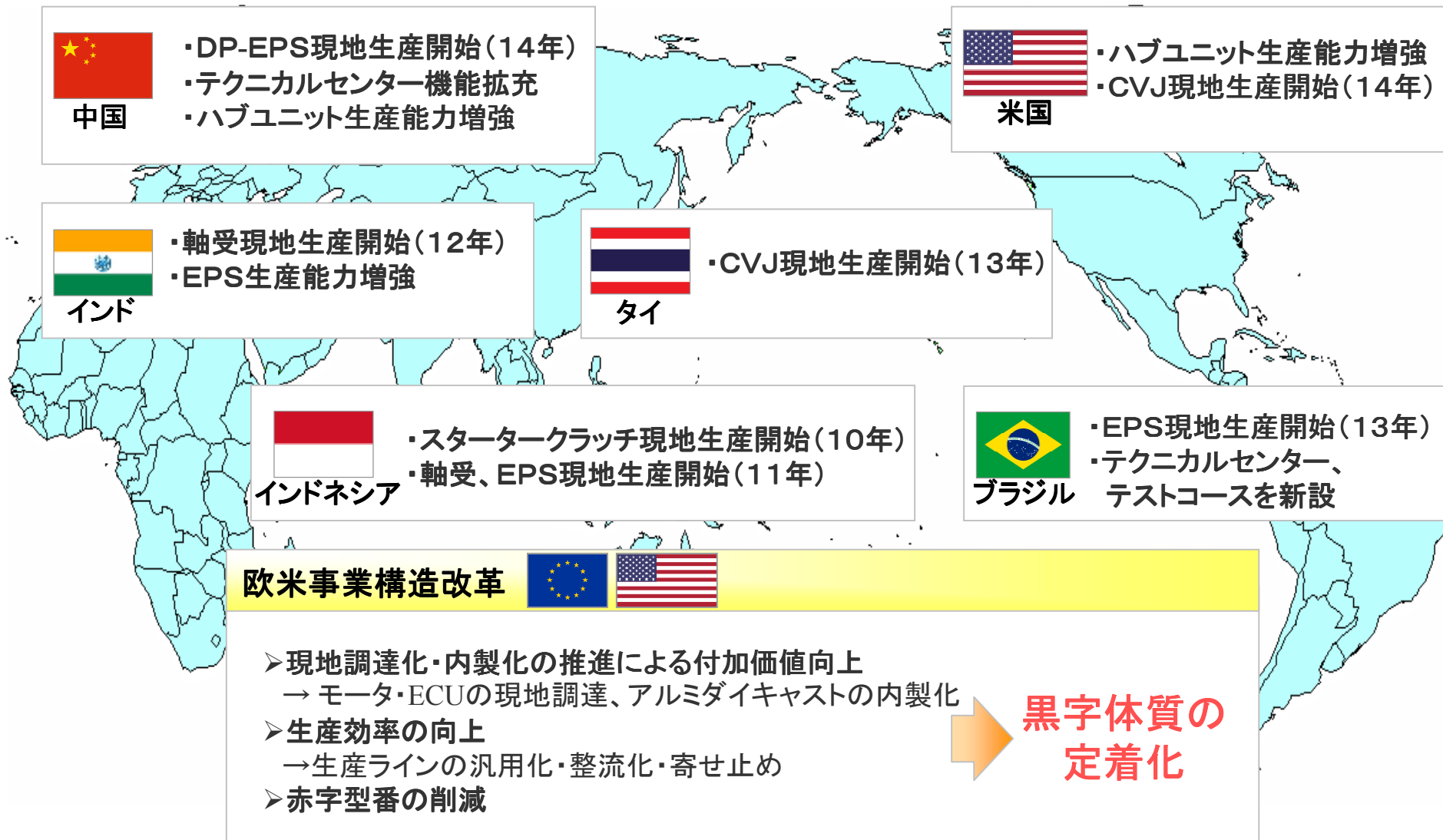
- 装置組立の「整流化」「サブアッセンブリー化」
 - 後補充生産化
- リードタイムの60%短縮



デジタルエンジニアリングで業務効率向上



成長分野・市場への重点投資



三位一体改革と成長市場への重点投資

商品力強化の
開発・革新ライン投資

付加価値を高める
内製化投資

新興国
能力増強

